



傍紫の金原次

柳屋雅舞の  
副號花  
枝於室の付候  
時  
工野口園治

明治三十二年五月  
五月開元  
五月開元  
五月開元  
五月開元

武者无類外二三枚続き画帖 1帖 本別7-93 00- 016

国立国会図書館







武者无類外二三枚続き画帖 1帖 本別7-93 00- 017

国立国会図書館







君の光と月と思ひうくれ出る烏瓜と團扇小書し黄昏へ光氏君と白  
 雪乃積る想ひ浅名山形ふ透と簾と纏合の契へ深き二世安樂同者の笠ふ  
 陣雨へ凌げど身ふ降涙の雨へ除る由を後妻打邪見の鍔杖は下立情  
 夏野の露より果敢なく消し賢婦の標に泣く凌晨の小烏丸ぞ取得し  
 譚へ古寺の舊く傳へく面白き評も高家の柳の蔭ふたるも嗚呼がま嗣号  
 不愧れど故翁の光と月と見て任浪出たる二世紫戸張の衣は艶へあまれと  
 名作名畫次賢し筆記す

薄々堂主人改  
 柳亭種彦

武者无類外二三枚続き画帖 1帖 本別7-93 00-018

国立国会図書館

